

第 84 回

ビジネスメールって難しい？

会計士受験生のみなさん、こんにちは。受験勉強お疲れ様です。

本日はビジネスメールの難しさについて書かせていただきます。

ビジネスメールの難しさとして、よくカジュアルなメール等のやりとりとの違いを挙げる記事がありますが、個人的にはそれは本質ではないように感じます。というのも、言葉遣い等はある程度先輩方のメールを参考にできる(CCで回ってくるメールを参考にする)うえ、ビジネスメールにはある程度の型があるため、とりあえず順守するだけで形式面の不備は起こりづらくなります。

では何が難しいのかというと、表現という行為そのものに内包される難しさがビジネスメールという外形で襲いかかってくるという方が本質に近いのでは

ないでしょうか。

私の経験した出来事で言うと、キャッシュ・フロー計算書において、当期新たに独立掲記した科目については、前期分も独立掲記への組み替え表示が必要ですが、前期行っていた独立掲記を当期から取りやめた科目（前期の独立掲記もやめ当期の科目と同じように組み替表示が必要）もあり、両者の組み替えの考え方を混同しないよう整理して丁寧に説明したつもりでしたが、修正後はキャッシュ・フロー計算書関係の注記を丸ごと削除したドラフトが送られてきた、という経験をしたことがあります。この件では電話で提案を行っていたものの、ではメールで行っていたら必要な注記が削除されなかったのかと省みてみると、今でも自信はありません。

結論としては、結局は事実や提案を過不足なく描写する表現力を鍛えることが、ビジネスメールへの苦手感を払拭する一番の近道だと思います。

以上、お付き合いありがとうございました。